

地域農業の歴史を区民全体で継承しながら、新たな農村交流にも取り組む

- 伝統文化の継承機能 -

なかだく 仲田区



稲の豊作に感謝する祭りに参加する地域の人々

伊是名村は沖縄本島からフェリーで約1時間を要する離島であり、農業や水産業を主産業とし、特に稲作が古くから盛んな地域として知られている。

同村では長く、高齢化や過疎化の進展に苦労してきたが、近年の農業基盤整備等をひとつの契機としながら、農家を中心とした民泊の受け入れ等も広がりつつあり、伝統文化を含む農村の魅力を伝える取り組みを進めている。



いぜなそん
沖縄県島尻郡伊是名村



地元の稲わらで編んだ大綱を区民総出で引きあう

〔伝統文化の継承〕

村内の各地区では、旧暦の6月に、その年の稲の豊作に感謝する「ウンナー」という行事があり、仲田区においても稲作の歴史を伝える場として、大切に継承されてきた。この祭りは、農家を中心として区民全員が参加し、大綱引きやスナイ（担がれた台の上で昔の装束の若者が組み合う）、沖縄相撲大会等が夜を徹して行われ、熱気と興奮で大いに盛り上がる。

また旧暦の8月には、来夏の豊作を祈願する豊年祭を開催しており、青年会を中心に地域に伝わる組踊りやエイサー、棒術が演じられる。

これらの地に年間を通じて、農業の恵みに祈り、感謝する営みを、地域の伝統として住民全体で継承する取り組みを続けている。

〔体験学習と教育、地域社会の振興〕

修学旅行生等を受け入れる民泊事業は、基盤整備による安定した農業用水の確保や農作業における機械化促進等で農家の負担軽減が図られたことを主な要因のひとつとして、いぜな島観光協会が主体となり、平成24年から農家を中心に本格的に受け入れを開始。島全体で毎年5,000人程度もの小中高生を迎えている。農家に宿泊した生徒達は、さとうきび畑等での農作業体験を通じて「農業」及び「食」について改めて考える機会を得ることとなり、また受け入れ農家及びその周辺地域では、生徒との交流が生きがいや日々の生活における活力になるなどの新しい動きが生まれている。



豊年祭で踊りを披露する若者



さとうきびの収穫体験を行う生徒達



マルチに穴を開けて玉ねぎの植付作業を体験する生徒達



島での再会を約束し生徒を見送る農家達